

## 私の宝物（青少年育成推進員の活動及び所感）

### 青少年育成推進員としての思い出

新庄市青少年育成推進員 大山 孝一

青少年育成推進員を拝命して約50年になろうとしていますが、以前の様な情熱が失われつつあります。大きな原因は年代が上がり、価値観の違いを感じるようになったことです。

ある行事を遂行するにあたって、結果を求めるのか、それともその過程を大切に作るかの違いを感じるようになってきました。あえて、私がどの方向を選ぶかは申し上げません。やはり年代が変われば指導方法も変わって良いし、その子どもたちの親がその価値観を見出すのが最良と思いますので、今後は、後方支援の形の指導に回っていこうと思います。

これまでの活動の中では、様々な思い出がありますが、その中でいくつか挙げるならば、他の町村の子どもを受け入れて生活する「ワンパクホームステイ」や、山形市に一年通って宇都宮大学の広瀬教授から受けた「生涯学習講座」があります。

この講座はNPO団体が県内の若者を対象として募集したのですが、新庄市では若い女性1名の応募しかなく、それも市役所の担当者からお願いされて参加したということでした。基本的手法は、教授の指導を受け、テーマは自分たちで見つける。その後は、新庄市の女性と酒田の若者のグループでチームを作って計画しそれを実践するのですが、私たちのグループで行ったのは、地震などの災害に対する地域の取り組みを紹介するものでした。今では、町内においても災害に対する組織ができましたが、その当時はどこにも組織されておりませんでした。この講座に参加した各チームの発表では我がチームが優秀賞を得て、賞金で新庄市全戸に配る災害マップを作成し配付いたしました。印刷も自分たちで行いましたが、それでも予算オーバーで個人負担した思い出があります。

### 子どもたちの安心

金山町青少年育成推進員 小野寺智保

私は金山で自営業を営んでおり、金山を中心にタンクローリーなどに乗り配達をしています。一昔前なら、小学生の子どもたちは、登下校時に見かけると必ず止まって、しっかりお辞儀をして挨拶してくれたものでした。しかし最近では、テレビなどでも多く取り上げられていますが、子どもを狙った犯罪などが多発したことにより、「知らない人には挨拶をしないように」と指導があったのか、挨拶をしてくれる子どもが少なくなってきました。本当にこれで良いのでしょうか。

挨拶は人生の基本だと思います。知らない人でも毎日挨拶をしていれば、その内に「今日は寒いですね。」とか「今日は天気が良いですね。」とか、そこから会話が始まり知り合いになったりすることもあると思います。そうすれば地域の人たちもつながりが出来て、より子どもたちを見守る時の役に立つと思います。

しかしながら、この素晴らしい挨拶をネタに悪い事をしようと子どもたちに近づく人もいます。最近は道路もきれいになり、自動車専用道路も整備され交通手段も良くなったからか、知らない人も多くなってきました。

そこでもう一度大人たちがしっかり挨拶を交わし近所づきあいをして、知らない人が少なくなれば子どもたちも安心して外で遊べるような地域になっていくのではないのでしょうか。

子どもたちが、「ここに住みたい」と思うような所にしていきたいと思っています。

### 活動を通して

最上町青少年育成推進員 尾形栄美子

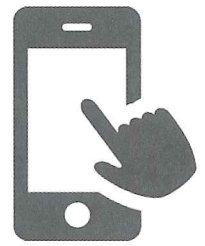
私は青少年育成推進員、2年目です。

推進員ってどんな活動をしているのかも分からずに戸惑いながらのスタートでした。

活動の一つとして、12月から月1回、朝のあいさつ運動に参加しています。私は、朝6時40分発で新庄へ通学する高校生の担当です。まだ、眠そうな高校生に「おはようございます。」と言ってティッシュを配ると、全員が「おはようございます。」と笑顔であいさつを返してくれます。「部活をがんばってね。」と付け加えると、「ありがとうございます。」と返ってきます。この子どもたちとのやりとりに、私一人うれしくなり、「子どもたちいい子だなあ。すばらしいなあ。」と朝から感激し、推進員をさせてもらって良かったな！と思う瞬間です。

また、高度情報化社会と言われている中、スマートフォン、インターネット、SNSの使用で「人と人のかかわり」が希薄になったように思えますが、今の時代の青少年にしてみれば、「濃い」ものなのかもしれません。時には、青少年にとって有害なものもあるかもしれませんが、上手に判断し、時には相談してほしいと思います。

最後に、推進員の宝ものとしては、やはり、地域の宝である子どもたちです。私はこの宝ものを、いつまでも応援していきたいと思っています。



### 読み聞かせの人々

舟形町青少年育成推進員 阿部 弘明

舟形町では、小・中学校の全クラスで週一回の読み聞かせを行って10年以上になります。小学校では木曜日の朝8時30分頃から、中学校は水曜日の朝8時15分頃から始まります。

朝の10分程の時間ですが、いくら子どもたち相手といっても人前に立って読むのですから、準備をして練習もしなくてはなりません。保護者が多くいますが、子どもが卒業した後も残って続けてくれる人も多く、30人ほどがメンバーとして活躍してくれています。わずかの報酬があるわけではなく、全くのボランティア。それどころか自前で絵本をそろえ、朝の忙しい時間を調整して来てくれます。

それでも都合が悪くなって当番を欠席する事もあります。それも前日に。そんな事態になると連絡に困っていたのは昔のことで、今はLINEグループがあります。「誰か代わって」と書き込めば、「私行けるよ」で、事は簡単に済みます。なんて便利なツールなのでしょう。

読み聞かせを長く続けることができているのは、教室で絵本を読むだけに終わらず会員同士の強いつながりや向上心、毎年行っている絵本作家を呼んでの講演会など、絵本を取り巻く環境が舟形町には整っているという事があります。そして何よりも、読み聞かせに耳を傾けてくれる子どもと先生が宝ものだと、声を大にして言いたい。

